

# 「七日市場の歴史(第五十七回)」

## 地区の歴史の話題

曾根原 孝和

道祖神から 藤ノ木馬口の千国道沿いに、寛政十一年(一七九九) 建立の道祖神があります。道祖神は、古くから境を守る神・道の神、さらには防災・防疫・縁結びの神として信仰されてきました。この道祖神は、三郷でも珍しい双体抱肩像の親しみのあるものです。

石像横の銘文を見ますと、横澤村・藤ノ木村が記され、隣同志の両村が建立したことが分かります。

藤ノ木村とは この時の藤ノ木村は長尾藤ノ木のことです。元禄十一年(一六九八)の「長尾組村々町間道法之帳」には、七日市場のところに「小名」の分として藤ノ木村、長尾村にも「小名」の分として藤ノ木村がそれぞれみえます。共に横沢堰系で古くから開発が行われてきました。なお、七日市場藤ノ木にも、寛政十年建立の道祖神があります。住吉荘の頃はどのような姿であったか不明ですが、一つのまとまった郷村をつくっていたかもしれません。今後の課題です。

明盛村成立から 明治七年(一八七四)明盛村が成立し、村は明治二十九年(一八九六)には、村内を七つの区に分けました。第一区藤ノ木・第二区七日市場、あと三区一日市場・四区二木・五区及木・六区上中萱・七区下中萱です。この時藤ノ木は一つの区として独立しています。

その後、昭和十五年二月九日、前述の長尾藤ノ木が正式に七日市場に合併しました。この時、区では酒一斗五升、肴十円で盛大な祝賀会を行っています。この日を迎えることができた、区民の皆さんの喜びのようすが浮かびます。

十月二十九日の「ふるさと史跡巡り」は西部地域です。道祖神や石仏、堰などの理解を深めるよい機会と思います。ご参加をお待ちしています。



双体抱肩像の道祖神と2村の銘文